

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：37118

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00632

研究課題名(和文) 地方議会による「会議録方言学」の研究

研究課題名(英文) Hansard dialectology: Doing dialectological research using the minutes

研究代表者

二階堂 整 (Nikaido, Hitoshi)

福岡女学院大学・人文学部・教授

研究者番号：60221470

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地方議会会議録を資料として、方言の研究を行うことが目的であった。1つは、現代社会における方言の状況を解明することである。もう1つは、地方議会という世界の中での方言の議会差や地域差を明らかにすることである。そのため、研究会を各地で、9回、行った。外部講師を招き、講演会も実施した。研究の成果として、全国学会での発表や専門雑誌への投稿を行った。また、国際学会での発表や海外雑誌への投稿も行った。以上から、地方議会会議録の言語研究資料としての価値を明らかにした。また地方議会会議録の中に見られる方言の実態についても示せたと思う。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義として、新しい研究領域を広げたことがある。言語研究資料として、地方議会会議録は有用であることを示した。特に方言資料として有意義であることを示した。また、研究進展の中で地方議会会議録のデータベース整備にも寄与したと考えている。社会的意義としては、地方議会への関心をよぶ1つのきっかけを作ったと考えている。言語を研究対象としたが、他研究分野ともかかわることができ、互いに刺激になったと受け止めている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to conduct a study of dialects using local assembly minutes as materials. One is to clarify the situation of dialects in modern society. The other is to clarify the differences in dialects and regional differences within the world of local assemblies. For this reason, we held nine study sessions in various locations. Lectures were also held by inviting external lecturers. The research results were presented at national conferences and submitted to specialized journals. He has also given presentations at international academic conferences and submitted articles to overseas magazines. From the above, we have clarified the value of local assembly minutes as language research materials. I also believe that I was able to show the actual state of dialects found in the minutes of local assembly meetings.

研究分野：方言学

キーワード：社会言語学 方言 地方議会 会議録

1. 研究開始当初の背景

地方議会会議録は市町村も含め、9割以上がネットで公開されている。基本的に話し言葉の大量データで、検索が可能にもかかわらず、これまで、方言研究には、あまり利用されてこなかった。同じ会議録である国会会議録は松田 2008 などで研究が進んでいるが、地方議会会議録は高丸 2013 などで研究が始まったばかりである。本グループは二階堂他 2015 において、地方議会会議録を研究し、言語資料としての価値を探ってきた。この研究で、いくつかの議会を対象として、公的場面での方言を含む議員発言から、よそゆき場面での方言使用の考察や気づかない方言の文脈上の文法分析を示した。本研究ではその成果をさらに進め、対象地域の拡大・時間的言語変化の研究、対象言語事象の拡大などをめざしてきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地方議会会議録が日本語研究資料として有益なことを示し、「会議録方言学」という新規研究分野を創出するとともに、その方法論を確立させることであった。本研究は、従来、あまりふれられなかった地方議会会議録を新たな言語研究の資料として利用することによって、従来の方言研究では扱いにくかった問題を考察することができると考えてきた。具体的には、従来の年配の生え抜きのくだけた場面による方言使用ではなく、議会というよそゆきの場面における方言使用の実態研究を行うことが可能となる。また、談話資料という性質を利用して、方言を単語レベルでなく、分脈レベルで分析することを可能とする。本研究では、全国を横断的に検索可能な会議録データベースを構築することをめざした。これにより、新たな方言コーパス研究を創出することとなると考えた。さらに、地方議会会議録は今後も資料が追加され続けることから、将来的に本研究の成果は 10 年後、20 年後の研究(経年変化)を可能とするものになる。このデータベースは方言のみならず、言語資料資源の保存でもある。この取り組みは、方言研究にとどまらず、日本語研究にも寄与しうると考える。また言語学分野における研究の事例を示すことで、今後、政治学や経済学など、地方議会会議録の他分野研究と連携して、地方議会会議録の総合的研究を生み出すことにもつながる。

3. 研究の方法

本研究では各地の地方議会会議録を、1 地域調査 2 研究分野調査の 2 つの面から分析していった。そのため、会議録データを整備することを考えていった。研究では、全国を分担して調査を進める。分析の観点として、地域方言・社会方言・時間方言の 3 つを立て、各専門分野から研究を進めた。

地方議会会議録には「地域方言」が出現する。それを素材に全国的規模での方言研究を行う。議会の場で、どういった方言が談話でどう使用されるかを観察することで、従来の研究では気づきにくかった地域差を明らかにする。

地方議会会議録は話し言葉の資料であり、世代も様々で両性の言葉の記録がある。これを使い、「社会方言」の研究を行った。また西日本の年配議員の中には、方言を交え、文末を共通語敬語(主に丁寧語)で結ぶ型(福岡県議員「多かるうと思うとです。」)を持つ議員がいる。議会という公的・よそゆき場面での方言使用という、新たな分野の方言研究をめざした。時間方言とは、時間的変化をする方言とする。地方議会会議録には、長期資料が公開(例大阪市 50 年分)されているものがある。これを利用し、地域の長期的言語変化を追う。また、今後も地方議会会議録は資料が追加されることから、将来の調査を見据えての、現在の地域方言の姿を明らかにしておくという視点に立った研究も行えると考えた。

4. 研究成果

本研究では、地方議会会議録を資料として、方言の研究を行うことが目的であった。

まず、地方議会会議録の資料をデータベース化することに寄与することができた。そのデータベースを使って、研究を進めることもできた。データベースの有用性についても、各種研究会で発表することができた。言語処理班はさらに研究を進め、1冊の書籍として、この分野の研究成果をまとめることができた。

研究を進めるため、研究会を各地で複数回、行った。研究会は他研究と合同開催も行い、他研究者にも公開した。さらに外部講師を招き、講演会も実施した。議会にかかわる職員や行政の答弁書に係わる立場の方から話を伺い、会議録作成の過程を知ることができた。海外の研究者にも同席いただき、海外における会議録の状況・研究状態もうかがうことができた。

研究の成果として、10 回以上の研究打ち合わせ会議や研究発表会を行うことができた。コロナの影響で困難な時期は Zoom 遠隔による研究会を実施した。それのみならず、他研究会での発表や全国学会での発表も複数回、行った。専門雑誌への投稿も複数、行った。また、国際学会での発表や海外雑誌への投稿も行ってきた。

さらに具体的成果として、以下のようなものがある。

県議会議員から国会議員になった議員を取り上げ、発言が、地方議会と国会で異なるかどうか

調査した。また首長の発言が議会と演説でどう異なるかの発表もあった。議会というよそ行き
の場という性質を生かし、婉曲表現の違いを調査、発表するものもあった。また議会の慣用的
な表現に注目し、議員だけでなく、行政側にも注目したところ、きわめて定型的な表現が用い
られることを明らかにした。

さらに最近注目される AI を使った方言研究も試みられ、この研究は最近の研究の動向を反映
しているだけでなく、言語研究班と言語処理班のそれぞれの強みを生かし、連携・共同して行
う研究となった。AI を利用し、機械学習させ、その地域の方言を機械に自動的に拾い出させよ
うとする先駆的試みである。結果はそう簡単には進まないという問題も明らかになったが、希
望をもてる点も多く、今後の新しい分野を切り開くことにもつながると考えている。急速な AI
の進化がこういった研究の可能性を今後、広げると思われる。

以上から、地方議会会議録の言語研究資料としての価値を明らかにできたと考えている。また
地方議会会議録の中に見られる方言の実態についても明らかにできたと思う。

今後は、地方議会会議録資料でまだ十分に生かしてない分野の研究を進めていきたいと考えて
いる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Matsuda, Kenjiro | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 "The birth and diffusion of group languages in the National Diet" | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Proceedings of Methods XVI: Papers from the Sixteenth International Conference on Methods in Dialect. | 6. 最初と最後の頁 219-227 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Hitoshi Nikaido | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 "The Speaking Style of Elderly Assembly Members in the Fukuoka Prefectural Assembly" | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Proceedings of Methods XVI: Papers from the Sixteenth International Conference on Methods in Dialect. | 6. 最初と最後の頁 209-217 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Suguru Kawase | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 "Regional Differences in Conjunctives in the Minutes of Local Assemblies" | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Proceedings of Methods XVI: Papers from the Sixteenth International Conference on Methods in Dialect. | 6. 最初と最後の頁 229-237 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 松田謙次郎 | 4. 巻 32-2 |
| 2. 論文標題 岡崎敬語調査に見る「足りない」～「足らない」の変異と変化 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 計量国語学 | 6. 最初と最後の頁 66-81 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 二階堂整 | 4. 巻 39 |
| 2. 論文標題 福岡県議会における行政側回答の定型表現について | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 国語語彙史の研究 | 6. 最初と最後の頁 243-254 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 Hokuto Ototake, Hiroki Sakaji, Keiichi Takamaru, Akio Kobayashi, Yuzu Uchida, Yasutomo Kimura | 4. 巻 Vol.14 Issue: 3 |
| 2. 論文標題 Web-based system for Japanese local political documents | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Web Information Systems | 6. 最初と最後の頁 357-371 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 乙武 北斗, 高丸 圭一, 内田 ゆず, 木村 泰知 |
| 2. 発表標題 BERTベース分類器とSHAPによる地方議会会議録における特徴表現抽出の試み |
| 3. 学会等名 第36回人工知能学会全国大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山際彰 |
| 2. 発表標題 公的場面における婉曲表現 議会会議録の「～ふうに＋思考動詞」を例に |
| 3. 学会等名 日本語学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 内田ゆず, 高丸圭一, 乙武北斗, 木村泰知 |
| 2. 発表標題 都道府県議会会議録コーパスの拡張 2011期と2015期の比較 |
| 3. 学会等名 言語処理学会第27回年次大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高丸圭一・内田ゆず・木村泰知・松田謙次郎 |
| 2. 発表標題 地方議会と国会における同一議員による発言の比較に向けた検討 |
| 3. 学会等名 第35回ファジィシステムシンポジウム (FSS2019) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------|
| 1. 発表者名 二階堂整 |
| 2. 発表標題 セミフォーマル研究の提案 |
| 3. 学会等名 第164回変異理論研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 高丸 圭一・乙武 北斗 |
| 2. 発表標題 地方議会会議録検索システムについて |
| 3. 学会等名 第164回変異理論研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 乙武北斗, 高丸圭一, 内田ゆず, 木村泰知 |
| 2. 発表標題 一般公開版「都道府県議会会議録検索システム」の概要 |
| 3. 学会等名 第32回人工知能学会全国大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 乙武北斗, 高丸圭一, 内田ゆず, 木村泰知 |
| 2. 発表標題 述語項構造に基づく地方議会会議録からの意見抽出手法の検討 |
| 3. 学会等名 第34回ファジィシステムシンポジウム |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 木村泰知、高丸圭一、内田ゆず、本田 正美、河村 和徳、乙武 北斗、吐合 大祐、遠藤 勇哉 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 日本経済評論社 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 自治体DX推進とオープンデータの活用 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-----------|---|--------------------------------|----|
| 研究 分担者 | 乙武 北斗 (Ototake Hokuto) (20580179) | 福岡大学・工学部・助教 (37111) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 松田 謙次郎 (Matsuda kenjiro) (40263636) | 神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授 (34513) | |
| 研究分担者 | 高丸 圭一 (Takamaru Keiichi) (60383121) | 宇都宮共和大学・シティライフ学部・教授 (32207) | |
| 研究分担者 | 川瀬 卓 (Kawase Suguru) (80634724) | 白百合女子大学・文学部・准教授 (32627) | |
| 研究分担者 | 岩城 裕之 (Iwaki hiroyuki) (80390441) | 高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・教授 (16401) | |
| 研究分担者 | 田附 敏尚 (Tatsuki Toshihisa) (90645813) | 神戸松蔭女子学院大学・文学部・准教授 (34513) | |
| 研究分担者 | 木村 泰知 (Kimura Yasutomo) (50400073) | 小樽商科大学・商学部・教授 (10104) | |
| 研究分担者 | 内田 ゆず (Uchida Yuzu) (80583575) | 北海学園大学・工学部・教授 (30107) | |
| 研究分担者 | 佐藤 亜実 (Satou Aki) (20829197) | 東北文教大学短期大学部・その他部局等・講師 (41503) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 山際 彰 (Yamagiwa Akira) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |